

ひろしま 住まいづくり コンクール 2015 作品集

「ひろしま住まいづくりコンクール」は、
住む人の笑顔とプロフェッショナルたちの
成果を広く伝える場所です。



INDEX

01-02

広島県知事賞
筒の家
田中 健二 [Small house design lab.]

03-04

審査委員特別賞 空き家再生部門 最優秀賞
世羅の家
延平 司 [橋本建設㈱]

05-06

リフォーム部門 最優秀賞
小泉の家 ～時代を超えて住み継ぐ～
梶田 栄子 [ef設計室]

07

リフォーム部門 優秀賞
岩成の家 築95年リノベーション
石川 晋次 [南宮原工ム店]

08

リフォーム部門 優秀賞
江戸時代末期の古民家再生
道本 聡 [南道建設]

09

リフォーム部門 奨励賞
House.T ーマンションの一室を温もりある戸建風へー
河井 光誠 [河井建設工業㈱]

10

リフォーム部門 奨励賞
本に囲まれて暮らす家
花井 佳代 [㈱ハウジングネットワン]

11-12

新築部門 最優秀賞
緑陽の家
岡本 康生 [一級建築士事務所プラス・ワイ]

13

新築部門 優秀賞
田尻の家
穂垣 友康・穂垣 貴子 [くらし設計室]

14

新築部門 優秀賞
四季を感じる家
富野井 武志 [㈱和田組]

15

新築部門 優秀賞
坪生の家
今川 忠男 [今川建築設計]

16

新築部門 奨励賞
Y's-HOUSE
向山 徹・衛藤 翔平 [向山徹建築設計室]

17

空き家再生部門 優秀賞
母屋の空き家改修
中村 克彦 [中村克彦建築事務所]

～ごあいさつ～

物語に出てくるようなかわいい家、庭が広くて大きな家、モダンな家…
皆さんが思い描く家の形は様々と思いますが、理想の「住まい」とはどんなものでしょうか。
ただ、建物がそこにあるだけではなく、人が住み、家族が生活し、そして住まう人の笑顔や思い出が紡がれてはじめて、その人にとっての理想の「住まい」が生まれるのだと思います。

「ひろしま住まいづくりコンクール」では、「住まいづくり」とは、住み手である建築主と創り手である設計者・施工者・企画立案者が共同で家族の物語を「住まい」の形にすることと考えています。そして、住まいづくりは、それぞれの理想の「住まい」への第1歩となり、日々の豊かな暮らしを通して、理想の「住まい」を実感できるようになるのではないのでしょうか。

本コンクールでは、優良な住宅の供給促進と住宅産業の活性化を目的に、県内で行われた個人住宅のリフォーム及び新築等の工事を対象に募集を行い、優れた住宅作品とその関係者を表彰し、県民の皆様にも「広島住まいづくり」を広く紹介しています。

平成22年度から6回目の開催となる今年度の「ひろしま住まいづくりコンクール2015」では、空き家の増加が社会問題となる中、新たに「空き家再生部門」を設け、使われていなかった空き家を再生して地域に根ざした住まい方を実現した取組など、空き家活用の今後のモデルとして参考にできる住まいづくりも募集しました。

今回、70作品(リフォーム部門32作品、新築部門33作品、空き家再生部門5作品)の応募があり、多数の優れた応募作品の中から、審査委員会による厳正な審査の結果、広島県知事賞を始めとする各賞の受賞作品として、13作品を選出いたしました。また、平成25年度から取り入れている現地審査では、実際に住まいづくりに携わられた建築主、設計者、施工者から、住まいに込められた想いや実現した暮らしの豊かさについて、素直な声をお聞きすることができ、本コンクールの趣旨に沿った審査を行うことができたと感じています。

広島県知事賞を受賞した作品は、どこにでも築35年の戸建て住宅を全面リフォームした事例で、1階の一部を陶器販売の店舗と兼用できるよう、簡単に空間構成を変更できる工夫があるほか、計画や工事の段階でのコストを意識した創意工夫の跡が随所に見られ、住み手の期待したライフスタイルがうまく実現されている作品です。

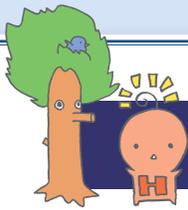
また、「空き家再生部門 最優秀賞」を受賞した作品は、審査委員会から、広島県知事賞受賞作品に次ぐ高い評価を受けたことから、「審査委員特別賞」を冠し、表彰することとしました。この作品は、日本家屋の雰囲気をうまく残しながら、新しい若い家族のライフスタイルに合うようにリフォームした良質な空き家の再生事例であり、以前の住み手から新しい住み手に、大事に手入れされてきた住まいが継承された作品でもあります。

この作品集には、受賞した13作品の、住まいづくりにおける建築主の様々な希望や想い、設計者や施工者等のノウハウや創意工夫、住み手と創り手の協働作業の成果が詰まっています。県民の皆様が、実際に住宅のリフォームや新築工事等を行われる際に、今回の受賞作品の特色ある創意工夫を参考とされ、より希望に満ちあふれる住まいづくりの一助となれば幸いです。

最後に、コンクールに応募いただいた多くの皆様、厳正な審査をしてくださった平野審査委員長をはじめとする審査委員の皆様、そして、御協力いただいた関係団体の皆様に対して厚く御礼申し上げます。

平成28年3月

広島県都市建築技術審議官 石岡 輝久



ひろしま住まいづくり コンクール2015 概要

趣 旨 このコンクールでは、広島県内で行われた住宅のリフォームや新築等の工事を対象に、建築主や事業者が建築物へ込めた思いやノウハウを取り上げることで、建築物を建てる上での工夫や技術をより多くの方へ伝えていきたいと考えています。建築主の嗜好やライフスタイル、広島の地域性などに配慮し、住まい方や省エネ・耐震性の向上、県産材の利用促進などを通して、建築主の暮らし向きや要望を形にした作品を広く募集しました。

目 的 広島県内で施工された住宅のリフォームや新築等の工事において、様々な創意や工夫に溢れた事例を募り、優秀な作品を「ひろしまの住まいづくり」として表彰し、これを県民に広く紹介することにより、本県の住環境の向上と住宅産業の活性化に寄与すること

エントリー登録受付期間	平成27年 9月14日～10月16日	第二回審査委員会	平成28年 1月20日
作品応募受付期間	平成27年 9月24日～10月23日	結果発表	平成28年 2月16日
第一回審査委員会	平成27年 11月16日	表彰式	平成28年 3月18日
現地審査	平成27年 12月14日,21日,23日	受賞作品展(県内各市町)	平成28年 4月上旬から約1年間

応募条件

1 応募者の要件 応募者は、応募作品の住宅の建築主(施主)、設計者、施工者または企画立案者

2 応募対象 平成24年4月から平成27年10月の応募締切までの間に、工事が完了したリフォーム又は新築等の実施例で、次の条件を満足するもの

〈共通条件〉

- 工事場所は広島県内であること
- 用途が住宅であり、常時居住していること(別荘などは対象外)
- 住宅の構造、規模は不問
- 建築基準法など、建築基準関係規定を遵守していること
- 過去に当ネットワークが主催した住まいづくりに関するコンクールに応募していないこと

〈リフォーム部門〉

- リフォームとは増築・改築・模様替え等をともなう工事であること(戸建て、共同住宅の別は不問)
- リフォーム後の用途が住宅であること(リフォーム前の用途は不問)

〈新築部門〉

- 戸建て住宅であること(共同住宅の新築は含まない)

〈空き家再生部門〉

- 空き家とは、一定期間以上使用されない状態に置かれていた建築物であること
- リフォーム後の用途が住宅であること(リフォーム前の用途は不問)

3 その他 応募作品については、第一回審査委員会終了後、入賞候補作品の現地審査を実施



審 査

1 審査の観点 応募された作品を次の観点から総合的に審査し、賞を選考

共通の観点

- 一般家庭で見本としやすい価格や工事内容で、いつでも広島県に住みたいと感じることができる、魅力ある住まいづくりを実現している
- 設計や工事の過程で生じた困難や問題を、創意工夫や高い技術力によって解決している

リフォーム部門

- 地域の気候風土に即した省エネ性能、耐震性の向上、バリアフリー化など、多様な住宅に対応した改修技術を用いて、住宅の品質向上を図っている
- 居住者の家族構成の変化や住み替えの需要への対応、自分らしいライフスタイル、住まいに対する想いへの配慮など、居住者のニーズを実現している

新築部門

- 高い断熱性、耐候性、耐震性などを備えており、長期にわたって活用されることを見据えた良質な住宅である
- 県産材・地域材の利用、地域の景観や街並みとの調和、健康で快適な居住環境への配慮など、居住者のニーズを実現している

空き家再生部門

- 耐震性や断熱性の向上、維持管理への配慮など、住宅の居住性を向上させ、空き家の再生を図っている
- 新たな居住者が、広島の気候風土やロケーションを生かし、住まいの中で、自分らしいライフスタイルを実現させている

2 審査委員会 (敬称略)

審査委員長	平野 吉信	[広島大学大学院 教授]
審査委員	福田 由美子	[広島工業大学 教授]
	城野 敏江	[独立行政法人住宅金融支援機構中国支店 支店長]
	元廣 清志	[公益社団法人広島県建築士会 会長]
	谷口 和郎	[一般社団法人広島県建築士事務所協会 副会長]
	龜谷 清	[公益社団法人日本建築家協会中国支部 支部長]
	山根 一弘	[一般社団法人広島県建築センター協会 訓練課長]
	宮川 裕壮	[一般社団法人日本ツーバイフォー建築協会広島県支部 支部長]
	田中 健太郎	[一般社団法人日本住宅リフォーム産業協会中国四国支部 副支部長]
	宮地 正人	[広島県 建築技術部長]

3 審査方法

第一回審査委員会

上記委員で構成する審査委員会が、すべての作品について書類審査し、入賞候補作品を選定

現地審査

入賞候補作品について、現地にて工事内容の審査や、応募者・建築主からのヒアリング等を実施

第二回審査委員会

書類審査及び現地審査に基づいて、入賞候補作品の中から各賞を決定

賞について

- ◎ 広島県知事賞 …………… 1点(賞状・記念品)
- ◎ リフォーム部門
 - 最優秀賞 …………… 1点(賞状・記念品)
 - 優秀賞 …………… 2点(賞状)
 - 奨励賞 …………… 2点(賞状)
- ◎ 新築部門
 - 最優秀賞 …………… 1点(賞状・記念品)
 - 優秀賞 …………… 3点(賞状)
 - 奨励賞 …………… 1点(賞状)

- ◎ 空き家再生部門
 - 最優秀賞 …………… 1点(賞状・記念品)
 - 優秀賞 …………… 1点(賞状)



コンクール応援隊は、ひろしま住まいづくりコンクール2015 を応援しています。



コンクール応援隊に関しては、広島県住宅課にお問い合わせ下さい。



筒の家

広島市



前面道路に対して開かれた一直線上の筒を住宅の外部に突き出すことにより、アトリエ空間を引き立てる計画にした。



建具の手掛けを15mmに設定し、彩色のあるテープを張った。気分で着せ替えられるようになっている。

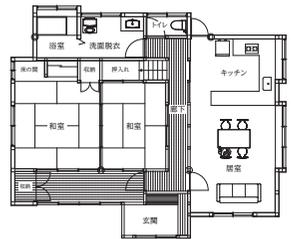


キッチンを住宅の中心に配置し、家族が筒スペースに集まり兄家族との視覚的な交流を可能とする。

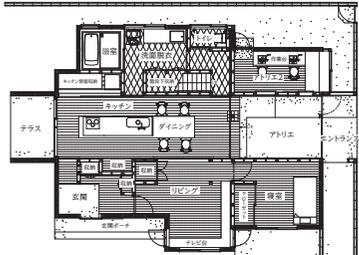


白を基調としたシンプルな筒空間に強弱を与えるため、窪んだ収納部分には別色を与えている。

before



after



天井まで伸びた扉は長い壁に対して自由に横方向へ動かせる計画にしている。



キッチンからリビングを望む。建具を開け放し筒の空間に広がりを与える。



プライベートを優先する際、1枚の扉で施設して住宅スペースと分離させることができる。



エキスパンドで仕上った壁はアトリエと周辺環境を柔らかく繋いでいる。



改装前の柱を象徴的に残し、以前の名残を感じられるようにしている。

創意工夫点

本計画は、築35年のリノベーションである。

前面道路から見ると、兄夫婦の家が裏側にある立地で、作品の販売ができる商業的空間に加え、兄家族との交流、他者を集めて焼物作家のイベントができる場所にリフォームしている。耐力壁を残した上で前面道路に開きながら兄家族の住宅に向かって一直線に伸びる開放的な空間は、室内の出来事を外部にはき出し、他者を偶発的に呼び込むスペースとなる。

その場所に商店としての機能を持たせ、必要に応じて施工主が住宅と商店の境界を作り出し、変化できる。

建築主	山本信也 様
設計者	田中健二 [Small house design lab.]
TEL	068-275-4300
施工者	柴田悦也 [シバ工業機]
TEL	068-879-0220

選評 審査委員 谷口和郎

多様な生活シーンに対応できるように計画されたシンダー(筒)状の空間は、大型の可動建具(パネル)装置によって、家族が集うDKからある時には陶芸家のための展示空間やサロンとして巧みに空間を変化させる事が出来る。また、インテリア素材を生かしたシンプルで明るい空間創出が、とてもメテイに富んでいる。シンダー状空間と表の空間(ポーチ)の延長線上に象徴的に設置された衝立(格子)効果を兼ねたエキスパンドメタルのパネルが、空間の仕切を曖昧にして魅力的な効果を引き出している。外観は、ごく普通の住居であるが、内部をモダンで豊かな空間へと見事に変身させている。

選評 審査委員長 平野吉信

本作品は、昭和に建てられた築35年の一般的な民家を、筒スペースに内在した陶器等の展示・販売を行う店舗とL+D空間を軸として、夫婦・母親そして子供部屋を備えた近代的住まいにリメイクしたニッチな計画が実現されている。比較的安価な汎用建材を活用した建具等を効果的に用いて、生活空間と店舗的空間のスマートな使い分けを実現しており、新しい住まいのあり方の一つの考えを表現した挑戦作としても価値が高い。住まい手との協働を密にして家づくりを進めてきた歩みも随所にうかがうことができた。

審査委員
特別賞

空き家再生部門
最優秀賞

世羅の家

世羅町



before



before



床を杉に貼り替え、天井、壁は既存。建具は既存再利用。



after

キッチンを部屋の中心に配置することで家中への動線を確保。うしろの小窓を開けると家の中を風が吹き抜ける。



元土間だったところ。家族が並んで使用できる大きさ。



他現場で見つけた古い型板ガラスを利用。模様はふたりのお子さんの名前と同じ。

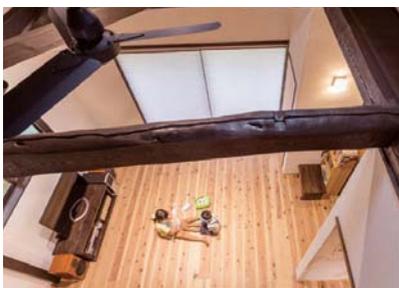
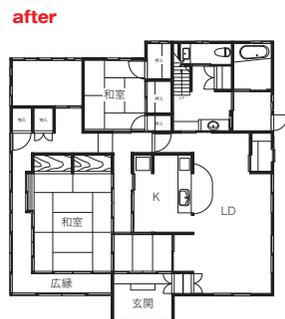


before



after

無垢材(クワ)の床の一部にタイルを使用し掃除しやすとした。天井、腰壁は杉、しっくい塗壁と和風にした。



小屋裏口フトからリビングが見渡せる。古い梁が古民家の良さを強調する。



after

3つの和室を1室(15帖)にした。床は30mm厚の杉フローリング。



before



採光と景観を考慮し、南面に掃出しサッシを設置。



昭和初期から町を見守ってきた家。新しい家族を迎えた今も、昔のままの外観を残している。

選評 審査委員 福田 由美子
世羅の中心部に近い古民家を、空き家バンク制度を利用して取得し、子供たちのびのび育てたいというライフスタイルに合わせて改修したこの事例は、今後の空き家活用モデルとなる。キッチンを家の中央に移し、生活の中心となるLDを南面させ断熱性能も含め快適性を高め、一方で、広縁に囲まれた10畳の座敷や玄関の間、建物の外観には手を加えていない。築30年の日本建築の魅力と現代の快適性の両立を図った点が評価される。

創意工夫点
築約80年の中古住宅を購入。日本家屋が好きというご主人の意向により広縁のある和室はそのままにした。家の中心にキッチン、配置し家族がどこにいてもわかり、窓を開けると風が家の中を横切るようにした。新建材、クロスは一切使用せず無垢材、自然素材を使用。壁、床、天井全てに断熱を施し、壁、小屋裏の補強も行った。日本家屋に住むという住み方の文化を、家族で継承していただきたいという思いでプランを行った。

建築主	丁様
設計者	延平司「橋本建設」 TEL:082-878-1110
施工者	橋本英俊「橋本建設」 TEL:082-878-1110
補助金	世羅町定住促進 空き家活用事業補助金

小泉の家

時代を超えて住み継ぐ

三原市



明治時代から変わらず、この地の風景を形作る外観は、そのまま継承した。古来からの漆喰と焼杉の仕上げとした。



土間に樺(ケヤキ)箆筋を再利用し、天板には縁側の桜板を貼った。古い家を記憶に留めた。



天井を取払い、すっきりした土間空間に。近所や友人とのコミュニケーションの場であり、この家のハレの場である。



北側に位置するが、山に向かって窓を開放し、天窓を設けることで、心地よい台所とした。天窓は排熱も期待する。



天井高を確保するため、屋根に断熱を施し、勾配天井とした。吹抜けて居間へとつながる。



居間の北側の部屋は、回遊動線上にあり、階段、トイレにつながる。障子を放てば光も風も通る。



光と風をたくさん取り入れるため、かつて養蚕が行われていた床を取払い、吹抜けた。



南の明るく風通しのいい場所に、集いの居間を設えた。庭や土間、和室へとつながる。



before



明治から平成までの、年を重ねてきた家に敬意を表し、断熱、補強など最低限を施し、姿をそのままに留めた。

選評 審査委員 元廣 清志
130年間使い続けた家を、家族の暮らしを快適に安全なものとして、更にも永く住み続けられるよう、田の字型の典型的な民家に、集いの場、食の場、水廻り、個々の場などのゾーンを考案、暗いイメージの民家に吹抜け、天窓などにより光と風を呼び込み、自然をうまく利用したプランとなっている。また、土間をコンクリートの場として活用するなど、地域との連携も取る生活スタイルに合わせた改修と、外観も良く在来の形式の保存に努めていて、参考となる事例である。

創意工夫点
明治中期に建てられたという家は築130年を超えて。先祖から受け継いだ家を直して、今後の人生を安心して心地よく暮らしていきたい、という熱い思いから計画が始まり、打合せを重ねた。民家の持つ、田の字型のおおらかな架構を利用して、古き家の記憶を留めつくりし場所を設えた。暗くなりがちな古民家の内部だが、回遊動線と「抜け」を作ることで、光と風が通りぬける機能的な空間とした。当初、減築を提案した離れであるが、小さいながらも妻の「終の棲家」として作り直し、建築主の要望に応えた。

建築主	Y様
設計者	梶田 栄子 eif設計室 TEL:0847330668
施工者	梶田 正文(梶ノカワ) TEL:0847330668
補助金	国・木村利用ポイント



LDK。床全体を下げて天井の高さを確保し、主居室の中心性を持たせた。



個室1,2。勾配天井によって梁が露出し、古木の存在感が空間を引き立てる。



階段に面して吹抜けとし、ハイサイドライトからの安定した光を導いた。



和室からLDKを見る。引戸によって仕切れる。大きなワンルームにもなり、風通しも良い。



玄関。床の高さを下げ、上がりやすい高さとした。東側に開口を設け、明るさを確保している。



before



after



縁側を内包して明るさを確保している。既存の鴨居の面影を持たせたキャットウォークが部屋を横断する。



before

建築主 岡本 照造 様

設計者 石川 晋次 (岡富原工ム店)

TEL (084) 9633259

施工者 宮原 伸明 (岡富原工ム店)

TEL (084) 9633259

補助金 省エネ住宅ポイント

創意工夫点

1階はLDKを南側に配置して明るさを確保した。同時に和室を引戸によってLDKと仕切り、普段は大きな室とする。ここで田の字型の間取りの風通しの良さを活かした。元々離れにしかなかった浴室、トイレを新設し、階段は勾配を緩やかにして架け替え、それらを繋ぐ廊下部分は吹抜けを介してハイサイドライトから安定した明るさを与えている。2階は屋根勾配に合わせて高天井とし、同時に隠れていた丸太梁を露出した。95年前の材木がしらすの一部となつてこの家の歴史を感じさせている。

選評

審査委員 田中 健太郎
この作品は日本家屋をよく見られる暗い北側に台所があり、普段使用しない南側に和室の続き間がある典型的な間取りであった。多くの住み手が同じ様な間取りで悩んでいると思われるが、この作品は、田の字型のプランの開放性や動線を活かしながら問題を解消している。また築95年で移築された事のある建物でもあるため、構造上の問題を現場でも検討し手間を掛けて解消している点も評価したい。2階の梁を見せる事で天井高をとっている点も良い。今後も参考となる作品である。



after

家族用のスペースとなる場合は天井が低く、床梁をそのまま現している。



before

田の字型に仕切られた和室の一部をLDKとして1部屋とする計画。



before

若夫婦の居住スペースとなる2階部分は、天井高が低く、吹抜け空間として計画した。



after

洋風テストの2階は親世帯と子世帯のプライバシーを高めるため、若夫婦の主寝室にも居間を設けている。



after

柱・梁・差鴨居など既存を活かし、テレビ台などは遺作している。



before



木製建具から、断熱サッシへ変更。床下断熱、及び木部塗装と外壁漆喰の塗り替えも行った。



before



after

創意工夫点

築150年という年月の重みに敬意を払い、出来るだけ残せるものは残しそのままの良さを引き出すような設計を心掛けた。さすがに築年数的に屋根や柱土台の劣化が激しく、取り替える部分も発生した。
また、いつかの時点で増築された2階の床構造も、貧弱な状態であったので一階天井の二階床梁、座板の化粧仕上げを活かして床の補強を行った。
構造即ち仕上げという伝統工法特有の意匠を損なうことのないように細心の注意を払っている。

選評

審査委員 山根一弘
広島市の古民家の良き、豊かさを感じる内部空間の改修を進めるにあたり、既存部分との融合にも配慮し、古民家もつ暗さをうまく解消し、明るくて暖かい居住性の良さを感ずる住宅に仕上げられています。伝統工法の継承も各所に活かされ新しく加わった家族も元気に育つことにつながっています。



わざと梁の仕上げをせず、むき出しにすることで空間のアクセントとした。



ベッドとしても使えるFRP (グレーチング)のロフトや鮮やかなフルーグリーンの塗装で空間に楽しさを表現。



長いカウンターはキッチンの配膳スペースや書斎コーナーに多用途に活用できる。



壁面にモザイクタイルを貼ることで無機質な空間ではなく温かみのある空間に。



間仕切りや壁を作らないことで、限られたスペースを最大限に使うことができる。



寝室とリビングをあえて区切らず、寝室もLDKの一部として家族がくつろげる気持ちの良いスペースに。

before after



創意工夫点
30年前には一般的なあった3DKの間取りから、夫婦と子供1人の3人暮らしを想定してゆったりとしたLDKベのリンベーションである。南西の庭に面して6帖の洋室と和室があった場所に家族が集うLDKを配置。ダイニングテーブルと並んだ対面式のキッチンにはウォークインクローゼットを介して洗面室までつながっており、家事動線をぐるりと回遊できる。専用庭にはウッドデッキを敷きつめ、リビングと行き来しやすいくつろぎのスペースだ。主寝室は間仕切り壁で区切らず、リビングの一角にした。子供室にはロフトを設け、限られた空間を有効活用した。

建築主	F様
設計者	福繁愛 WHLPODES建築事務所
TEL	06828777・06377
施工者	河井光誠 河井建設工業㈱
TEL	06822911211



広島県産材の杉の板を使用した大容量の棚には可動扉を付け、家電や食器も収納できるステンレスのキッチンがダイニングテーブルと一体型で製作。



壁紙は輸入壁紙を使用。



トイレの壁紙にも「本」のイラストが。



和室を取り払い、自然光で明るく開放的な空間に設計。窓際のベンチに腰かけて読書も楽しめる。

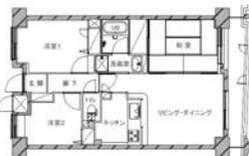


部屋と部屋の間に壁ではなく引戸を設置し、ライブラリーへの動線と風の通り道を確保した。



効率的な動線はもちろん、リビングにいるお子さまの様子も見ることができる。

before



after



「ライブラリースペース」の廊下側のオリジナル建具には、玄関からの光を取り込めるよう一部ガラス張り。

創意工夫点
本が大好きというご夫婦、いつでも手に取って本を読め、本を身近に感じられる空間を希望された。本がインテリアの一部となるよう、壁一面に広島県産材の杉の板を使い、食器棚も兼ねた大容量の「見える」収納を設計した。また、全長4mのダイニングテーブル一体型のオーダーメイドキッチンを製作し、統一感のある空間に仕上がった。同時に、本来物件がもっていた光と風通しの良さをより活かせるよう設計した。

建築主	Y様
設計者	谷川智明・浅津真吾 [株式会社] 探(SWITCH)
施工者	花井佳代 探(SWITCH) ネットワ
TEL	06820509881



ダイニングテーブルの真上に天窗を設置。明るいだけでなく食事しながら見上げると空が見え楽しい。

リビングは勾配天井となっており2階の子供部屋へと繋がる。床は天然の杉板張りです。足触りが気持ちいい。



家族みんなで力を合わせて床の塗装。天井材や家具・建具など建築主自らが塗装を行う参加型家づくり。



天井いっぱいの玄関引き戸。大きな花崗岩の踏み石とそれに続く土間は墨入りモルタル。軒裏は杉板張り。



玄関を見る。下駄箱と高さの揃った地窓から植物がちらっと見え、その影が土間に影を落とし込んでいる。



脱衣室から飛び出した洗面台。廊下の一角に洗面コーナーとして据え付けることでより自由度を高めた。



2階まで連続する大屋根が家全体を包み込む。屋根中腰にある穴は寝室前のバルコニーとなっている。



和室からリビングを見る。木製サッシからリビング床へと光が差し込み隅だまりをつくっている。



ダイニングからリビングを見る。杉板を張った壁が緩やかに空間を分節する。この壁は構造体兼TV掛け。

選評 審査委員 宮地 正人
 施主の希望する「光」「風」「白」「木」をモチーフに造られた家は、勾配屋根を利用した吹き抜けのリビングと和室や濡れ縁・庭に連続性を持たせることにより、小ちんまりとした外観からは想像できない広がりや光に満ちた豊かな空間となっている。さらに、ダイニングキッチンと各部屋との回遊性など生活動線に対応した工夫も見られる。施主は自ら塗装を行うなど積極的に家づくりに参加しており、愛情溢れる「我が家」はこれからも大切にされるであろう。

創意工夫点
 この住まいは、1階から2階まで包み込む大屋根で構成され、道路側からは一見すると平屋の様な佇まいとし、その屋根断面はそのまま室内に反映され、リビングは大きな勾配天井となっており、子供部屋へと連続して、平面計画では、回遊性を持たせた家事生活動線とし多様性をつくりだした。また建築主自らが塗装を行う、参加型の家づくりとすることで、コストダウンを図ると共に住まいへの愛情を深めることに貢献した。

建築主	1 様
設計者	岡本 康生 「二級建築士事務所プラスウイ」 TEL(084)944-0966
施工者	角田 浩樹(ホ1人独) TEL(084)987-3555



「まちに開いた暮らし」ができるように北庭を設け、四季折々の緑の景観を地域の人達と共有している。



ダイニングから通り土間・アトリエを見る。



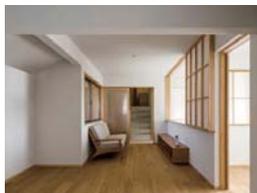
冬は南側より差し込む日射熱を床に蓄熱させ室内環境の安定化を図る。



アトリエから通り土間・ダイニング・キッチンを見る。



通り土間から北庭を見る。



2階ファミリールームから階段室を見る。



濡れ縁と庭の先には田園が広がる。



引込戸を引き込むことによりLDKと濡れ縁・庭とその先に広がる田園までが一体となる。



南面と東面は田園に開けており、庭にはモミジや桜など四季を感じる植栽が植えられている。



夏場は風の抜け道となり、冬場は薪ストーブの温もりを家全体に配給し、また家族を暖やかに繋ぐ機能を持つ。



北面は、アプローチと駐車スペースとした。駐車場からは軒下を通過して玄関及びサービスヤードに繋がる。



一部を振り込みとし大人数の来客への対応を可能にした。腰をかけて食事などを楽しめるようにした。

建築主	1棟
設計者	穂垣友康・穂垣貴子 くらし設計室 TEL:0844-9737202
施工者	角田浩樹(ホムムル) TEL:0844-9873555

創意工夫点

福山市郊外の瀬の浦へ至る幹線道路沿いに建つ二世帯住宅兼アトリエである敷地の南北に2つの庭を計画し、建物中央に配置した通り土間から南北の庭へそしてまちへと繋がるような「まちに開いた暮らし」ができるよう南側の自然環境と共生する住まいを目指した。夏は南面に設けた深い庇で日差しを遮り、冬は南面に設けた窓から差し込む日射熱を熱容量の大きな墨入りモルタルの床に蓄熱させて暖房効果を得ることによって室内環境を安定化させるような自然エネルギーを利用した住まいである。

選評

審査委員 龜谷清
この住宅は個人住宅であるが周辺の環境やミニシアターの配慮がなされる周辺地域と住宅のあり方の好例である。デザイン的に気負ったところが無く、施主の要望に配慮しながら極細かいとらまで丁寧にデザインされており非常に好感の持てる住宅に仕上がっている。自然素材や地域の職人家具を積極的に採用しながら地域性・場所性を活かしたパラスの取れた住まいづくりのお手本になる秀作である。

建築主	M棟
設計者	富野井 武志(棟和田組) TEL:0826-571314
施工者	米近 貢(棟和田組) TEL:0826-571314
企画	吉富 泰行(棟和田組)
立案者	TEL:0826-571314
補助金	安芸高田市住め1る補助金

創意工夫点

敷地は東面と南面に田園に接しており遮るものが無く、施主が昔から眺めてきた風景や記憶の中で暮らして頂けるよう計画した。東面及び南面に大きな開口を設け、庭を介し田園を身近に感じて頂きながら四季を感じる。夏の暑い時期は通風の生活が可能にすべく、LDKを吹抜けとし北面にハイサイドライトを設け、南からの通風が吹抜けから抜ける機能を持たした。吹抜けは2F個室とも面しているため、家族を暖やかに繋ぐ機能を有している。

選評

審査委員 城野敏江
大空間のLDKを中心としてフライトの間を配したシンプルで平面計画である。田園に開かれて四季の移ろいを楽しめるLDKは、育ち盛りの子供が遊び、大人が集う場としての工夫もあり、居心地の良さを感じる空間となっている。
また、優良住宅仕様の住宅性能を備え、地域産材を活用するなど地域環境にも優しい住宅である。実質的で無駄のない設計がコストを抑える効果にもつながっており、子育て世帯の住まいづくりの参考となる計画である。



擁壁で少し高台となる敷地に建つ。軒高さを揃え水平ラインが強調される。眼下に稲穂が広がる。



キッチン



木の架構を現しにすることで、木の力強さを感じると共に木に包み込まれた安心感が生まれる。



天井は杉板張り30mm、化粧垂木120×60、壁は珪藻土塗り、床はナラフローリング、天井の高さ2.680~4.150。



エントランス



エントランス夜景



リビングの扉戸を戸袋に引込むことで庭とリビングの境界をゆるやかにする。



朝世帯の住居は平屋のため、昼前には隣の光が中庭に降り注ぎ、秋には紅葉の葉が中庭を彩る。



メガホン型の建物形状が、縁側で反射した光を建物全体に行き渡らせる。



屈曲した壁の配置が街路の様な空間を作り出している。



配置計画により、子世帯住居の左官による荒々しい外壁を背景にした緑の景観を順光で楽しむことが出来る。



右に親世帯住居、左に子世帯住居、中央にはシンボルツリーのハナミズキ。



天井まで届かない壁で区切ることで、天窓から降り注ぐ光を空間全体で共有することができる。

創意工夫点
ひとつの敷地に親世帯・子世帯が単独の住居を建てた小さな共生住宅の計画。道路沿いのシンボルツリーを基点に南東方向にリリーな庭状の空間を設けることで、両世帯の間に北庭(来客用駐車スペース)、中庭、南庭といった様相の違う3つの庭が連続し、緑豊かで一体感のある住環境をつくることができた。
子世帯住居の中庭に面した外壁は、四季折々に変化する緑の背景となり影を映し、静かな風景を穏やかな光とともに親世帯に送り届け、親世帯の和室から望む南庭は、子世帯のメガホン形状の空間に借景として庭の風景と反射光を送り届ける。

建築主	横見清輝・横見敦雄
設計者	向山徹・衛藤翔平 [向山徹建築設計室] TEL(082)962-4008
施工者	奥田耕一[機プレシ]

選評 審査委員 元廣 清志
自然の光が差し込み、風通が良く、夏は涼しく冬は暖かく過ごしやすい。家族の団聚ができ、団結が生まれ、家事のしやすい家をめざし、両親の住む母屋と非常にバランスのとれた間隔と配置をもつて計画している。特に広島県大峰山の佐伯杉を直接山林に出かけ決定するなど、内外部の意匠に木の構造がよく見て取れるデザインと一体として取組み、建物全体で木を感じる空間の演出をしている。時を楽しみながら、メンテナンスを通じてクライアントと共に成長し育める住まいづくりに取組んでいる。

創意工夫点
敷地は福山市郊外に位置し、両親が住む母屋の隣である。南北を軸とした十字プランは、家族が集まるリビングダイニングを中心に回遊性があり、引戸の操作で空間をゆるやかに分節することで、やわらかな一体感を生み出している。構造材は、広島県大峰山の佐伯杉を選定し、床や天井の内部仕上げには木材を使用し、壁は珪藻土塗りとした。自然素材とし木の持つ表情のやさしさ、肌の柔らかさを感じる空間づくりとしている。

建築主	北村太郎 様
設計者	今川忠男 今川建築設計 TEL(084)953-2729
施工者	織田 誠爾(株式会社) 誠 TEL(084)953-1650
補助金	平成24年度ひろしまの森づくり事業(県産材消費拡大支援事業)

便利な情報,ご相談窓口など,住まいづくりのトータルサポート

ひろしま住まいづくり 支援ネットワーク

安心・安全の住まいづくりをめざして

建築士,住宅関連事業者,行政などの関係団体が構成する「ひろしま住まいづくり支援ネットワーク」がみなさんの住まいづくりをサポートします。

どこに相談すればいいの?



安心して満足の
できるリフォーム
をするには?



悪質な
訪問販売によくある
手口って何?



リフォームについて
知っておきたい
ことって?



「ひろしま住まいづくり支援ネットワーク」とは?

県内の建築・住宅関係団体が提供する住まいづくりに関する情報を共有し,県民が安心して適切な住まいづくりが行えるよう支援することを目的としています。

ひろしま住まいづくり支援ネットワークでは,住まいづくりに関わる消費者への情報提供や住宅相談など,住まいづくりのサポートを行っています。

ひろしま住まいづくり支援ネットワーク

(建築の専門家等)

ホームページによる情報提供

- 住まいづくりのポイント
- 高齢者のための住宅改修ポイント
- 耐震診断



安心できる住宅相談

- これから住まいづくりをお考えの方
- 現在工事中の方
- すでに工事が完了している方



消費者
住まいづくりをサポート



after

外観の風情は要望通り残したが,風呂と脱衣室は減築し代わり玄関を新しく造った。外部建具は全てペアガラスサッシに変更している。



after

元々玄関だった場所をLDをもってきて上部から採光をとり明るさを確保した。全体が見通せるので家の中心になっている。



before



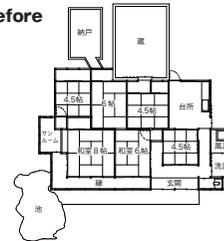
before



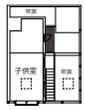
中二階であった2階は天井を撤去して屋根なりに天井を張った。低いところで1.2m程度であり,ロフトのような部屋になった。



before



after



奥の車庫へ通り抜けられるようになっており昔の広い土間のようなスペースにした。突出し窓は木製で内部には網戸を組み込んでいる。

選評

審査委員 富川 裕社

長い間、空き家になっていた母屋を、その存在感を損ねることなく「和」の雰囲気を意識したデザインとなっている。思い切って天井を撤去することによって、白壁と梁のコントラストを上手く表現しており、贅沢ともいえる広い空間を生み出している。その居間からさりげなく配置された階段を上ると、明るい子供部屋があるという仕掛けが楽しい。玄関周りの中庭はコンクリートの周囲を砂利で仕上げ、心地よいアクセントを表現している。この母屋が、戻ってきた家族を暖かく迎えているように感じました。

創意工夫点

築100年の空き家になった母屋があり、棟の離れに両親が住んでいた。両親が高齢者ということもあり、娘家族が母屋に帰り住むことになった。祭事には親戚が集まることや両親の要望もあり、前の風情は残しつつ耐震診断に基づいて耐震補強と断熱改修をした。仏間のある続き間は残してそれ以外は柱・梁を残しつつ現代生活に合うように間取りを変更した。LDは南側に移動し梁をあらわし、吹抜とすることで明るく開放的にした。壁は珪藻土、床は無垢材に植物性塗料の自然素材とし、既存となじむようにした。

建築主	M様
設計者	中村克彦 中村克彦建築事務所 TEL:082-29338620
施工者	山本 恭久(狭木工務店) TEL:082-24410141

\\すまいとすまいる!!\\



主 催 広島県
ひろしま住まいづくり支援ネットワーク

広島県, 呉市, 福山市, 三次市, 東広島市, 廿日市市,
(独)住宅金融支援機構中国支店, (公社)広島県建築士会,
(一社)広島県建築士事務所協会, (公社)日本建築家協会中国支部,
(一社)広島県建築センター協会, 広島県住宅産業四団体協議会,
(一社)日本住宅リフォーム産業協会中国四国支部

後 援 中国新聞社, NHK広島放送局, 中国放送,
広島テレビ, 広島ホームテレビ, テレビ新広島,
広島エフエム放送, 国土交通省中国地方整備局

事務局 ひろしま住まいづくり支援ネットワーク
「ひろしま住まいづくりコンクール2015」事務局

(公社)広島県建築士会 事務局
〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ5F
TEL082-244-6830(代)